



2019年6月10日

安全できれいな水を届けたい！ 今年も714万錠の浄水剤を途上国の子どもたちへ

「Kyoei Safe Water For Children プロジェクト」の取組みでユニセフに寄付

共栄火災海上保険株式会社(本社:東京都港区新橋1-18-6、社長:助川 龍二)は、不衛生な水をきれいにする浄水剤を途上国の子どもたちへ届けるために、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、浄水剤714万錠分に相当する額を寄付しました。2015年に社会貢献活動の一環としてスタートした「Kyoei Safe Water For Children プロジェクト」の取組みによるもので、今後もこの取組みを継続していきます。

■ 寄付の実施について



「Kyoei Safe Water For Children プロジェクト」は、途上国の子どもたちへ不衛生な水をきれいにする浄水剤を届けるために自動車保険料の一部を拠出し寄付するもので、2015年から継続している社会貢献活動です。

今年も去る5月16日(木)に、当社関係者が公益財団法人日本ユニセフ協会を訪問し、2018年4月～2019年3月の1年間で集まった寄付金をお届けしました。拠出した寄付金は、浄水剤714万錠分(小学校の標準的なプールで約100杯分の飲料水に相当)として途上国に届けられます。

■ 当社の社会貢献活動について

世界には、安全に管理された飲料水を使用できない人々が21億人いるとされており、そのうち8億人は自宅から往復30分以内で飲料水を汲んでくることもできません。不衛生な水を口にすることで下痢や感染症を引き起こし、幼い子どもたちのかけがえない命が奪われている現実があります。



また、2015年には「持続可能な開発目標(SDGs)」が国連サミットで採択され、「安全な水と衛生施設(トイレ)をすべての人に」という目標に向けて、身近で地道な活動が求められています。

当社は、2015年から「Kyoei Safe Water For Children プロジェクト」を毎年実施し、一人でも多くの子どものために安全できれいな水を届ける活動を支援しています。

このほか、バレンタインデーの義理チョコとホワイトデーのお返しを、もっと有意義な目的に使えないかと女性社員有志が発起し、1993年から「義理チョコ・あげたつもり・もらったつもり」バレンタイン・チャリティ募金」を26年連続して実施しています。

また、各家庭で不用になった衣料品や余っている家庭常備薬、おもちゃ、文房具、裁縫用具などを集め、マリ共和国(西アフリカ)の難民キャンプへ贈る「クリスマス・チャリティ」を、同じく1993年から実施しています。



当社は、各種協同組合・協同組織の前身である産業組合が設立母体であり、産業組合の「共存同栄」「相互扶助」の精神に基づき、今後も社会貢献につながる各種活動を積極的に実施していきます。

以上